



左から

編集長：伊藤宗寿 奈良県出身、大学でロボット研究、中小企業診断士（休止中）。クラフトビールが好き。

広報：井上史歩 長崎県出身、IT系企業での広報、マーケティングから転身。

記者：中野涼奈 山形県出身、金型メーカーでの経験を活かして製造業を取材中。

<https://monojirei.publica-inc.com/>

するケースが増えており、ものづくり新聞でもこれまでに20件以上取材しました。どのように企画を作り、ブランド化し、販路を開拓していくか、という実践者のノウハウは、これから自社ブランドを始めたい企業にとって参考になると思います。現在は国内の町工場や職人さんへのインタビュー記事が中心ですが、今後は海外の事例を取り上げるなど、枠に縛られずいろいろな企画を考えています。製造業と縁遠い若者や女性にも「ものづくりは楽しい」「わくわくする」と思ってもらえるようなメディアにしていきたいですね。

中野：私たちが取材で大切にしているのは「現場とつながること」です。できる限り現地に赴いて直接お話を聞き、自分たちで撮影することを心がけています。取材は、国内外を問わずどこへでも赴きます。先日はタイ・バンコクに行ってきたんですよ。

井上：特に印象に残っているのは、埼玉県の小さな金型工場への取材です。私は2021年4月に入社するまで製造業に関わったことがありませんでした。3代目のご夫婦が工夫を重ねて営む、生活と地続きの工場。その取材を通して、日本の製造業の根幹に触れた気がしました。

ものづくり新聞編集部

(NAGAYA 清澄白河駅前)

現場に足を運んで発信する、ものづくりの魅力

伊藤：株式会社パブリカとして製造業のコンサルティングをする傍ら、製造業のさまざまな取り組みを紹介する「ものづくり新聞」というメディアを運営しています。全国各地の中小ものづくり企業や町工場のユニークな取り組みや優れた取り組みを紹介することで、有益な知見や情報を業界内で共有し、新しい取り組みが生まれるきっかけを提供できればという思いからメディアを立ち上げました。2021年にスタートし、今では週1ペースで記事を公開しています。徐々に読者も増えてきて、最近では「取材してほしい」と声をかけていただくこともあるんです。

最近では、OEMで部品などを作ってきた町工場が自社ブランドに挑戦

鈴木みずほさん (NAGAYA AOYAMA)

美容室利用を日常化することで人生を豊かに

美容室の月額利用サービス「MEZON」は、私の原体験がきっかけで生まれたものです。「プレゼンの前に美容室に行って、シャンプーとスタイリングをしてもらおうとプレゼンがうまくいく」という成功体験があり、美容室利用を日常化したいと思い起業しました。

現在は5万人弱の登録者がいますが、順風満帆ではありませんでした。アプリ開発が難航していたため、ローンチ前に先行してプレスリリースを打ったところ、無料会員登録者が1000人集まったんです。しかし実際にサービスを利用してくれたのはその1割。興味があることとお金を払うことには別のハードルがあると知りました。

その後、「サブスク」というビッグワードの流行に乗じてメディアの紹介が増え、事業は軌道に乗ることができました。コロナ禍でユーザーの商圏も美容室の業態も大きく変わり、チューニングに苦労した部分はありましたが、長い目で見れば時流には合っていたのだと思います。

NAGAYAには登記のために入りましたが、広瀬さんやスタッフの皆さんが声をかけてくださる温かい場所というイメージがあります。NAGAYAには他のシェアオフィスにないファミリー感がありますね。

私たちのサービスはシャンプー・スタイリングでの利用を軸にしています。美容師さんからすると、それをフックにカットなどでも来店する方が増えるという点でポジティブに捉えていただいています。また、手の空いているスタッフさんの稼働を高めることができるという意味でも提携することがメリットになっているのだと思います。美容室は全国に約25万軒、コンビニの5倍あると言われていた一方、その半分は空席で何も収益化されていないという実状があります。そこで、最近では空席をインフラとして活用する事業も始めています。

ヘアスタイルが整うと人生が彩る、というのは貴重な経験でした。世の中の人々にもこのサービスを通じて人生を豊かにして欲しいと思っています。



1989年3月30日生まれ。東京都出身。大学卒業後、不動産営業を経て、2012年サイバーエージェントグループに入社。新規事業立ち上げメンバーとして、WEB広告の商品企画から開発まで従事。新規事業単月粗利ギネスを更新。

2017年10月、株式会社Jocyを設立。美容室月額サービス「MEZON」を立ち上げる。開始から約4年で提携美容室は約1,000美容室、会員数は4万人を突破している。

<https://mezon.jocy.jp/>

僧侶の仕事とは？ - 僧侶の仕事の秘密に迫る！ -

2022/09/21「NAGAYA Online Cafe vol.11」開催レポート



▲ゲスト：唐溪悦子さん

「僧侶」と聞いてどんなイメージが湧くでしょうか？ 寺院で修業を積んでいる、出家している、お寺の管理や維持をしている……思い浮かんでも、実際のところわからない人も多いのではないかと思います。

今回は、僧侶でありつつ他にも様々な仕事をしている唐溪悦子（からたに・えつこ）さんをお呼びして、僧侶のお仕事についてお話を伺いました。唐溪さんは、島根県美郷町出身で、兵庫県神戸市との2拠点生活をされています。お寺のひとり娘として生まれ、高校時代に僧籍を取得（お坊さんになること）するも僧侶としての生き方に悩み、大学卒業後はお寺に戻らず就職。現在は僧侶としてラジオなどの出演・執筆などを行いつつ、会社に所属し企画・デザインディレクションなどを行っていらっしゃいます。

オンラインイベントでは、唐溪さんの人生の流れから、今に至るまでのお話、そして僧侶やお寺の事情、現在のお仕事、どんな葛藤や悩みがあったかなどに

ついてもお話ししていただきました。

参加者の方々も、「僧侶になぜなろうと思ったの?」「僧侶の資格ってなに?」「僧侶で大変だったことは?」と唐溪さんに興味津々。その他にも、「これからどんなことをしていきたい?」「お寺はどうなっていくと思う?」など質問がたくさんありました。

僧侶について知るだけでなく、「これから自分はどんな道を行ってみたいか」と少し立ち止まって考えることのできるイベントになりました。

それぞれの環境からオフィスの括りを超えて参加いただいた皆さん、ありがとうございました。オンラインならではの交流に楽しさを感じられる会を引き続き企画していく予定ですので、お気軽に参加してくださいね!（書き手：原田）

NAGAYA では、隔月のペースで「学び」や「わくわく」をシェアするさまざまなイベントを企画・開催しています。

今回は未定ですが、決まり次第メールなどでお知らせいたします。テーマやトークゲストも随時募集中です!

【NAGAYA かわさき】11月12日（土）13～15時 「手前味噌」づくりワークショップ開催! お申し込みはスタッフまで。

NAGAYA サポーターからひとこと

NAGAYA の活動を見守り応援して下さる、さまざまな分野のエキスパート「NAGAYA サポーター」からメッセージを頂いていますのでご紹介します。



阿部 俊さん

(SHUNABE ワインインポーター)

人は、いつ、どこで、誰に会って、どんな経験をしたか? によって、その後の人生が変わることが多いと思います。そして、その経験の衝撃が強いほど狂いにも似たヒラメキとなり、それをもとに行動を興（おこ）し続けているうちに、自然と周りの人たちも賛同してくれるようになります。これは実に面白いことですが、NAGAYA はこれが起こりやすい場所だと思います。

編集後記

今回のインタビューは、どちらも起業されている方のお話を聞かせていただきました! お二人のお話を聞いて実感したのは、「やりたい!」と思った時の行動力と想いがあれば、なんでもできる、ということ。自分を諦めずに挑戦する力強さを感じるインタビューでした◎（原田優香）

「僧侶」って男性のイメージしかなかったし、丸刈りかスキンヘッドだと思っていたし、何なら全員おじいちゃんだと思っていました。唐溪さんも、きっとそういうステレオタイプの前で葛藤して今の活動に至ったのかなと想像しました。ステレオタイプって、自分次第で更新できるものなのかも。

（吉澤瑠美）

執筆・編集：原田優香、吉澤瑠美
コーディネート：広瀬新朗

【NAGAYA 広瀬より】

かれこれ10年前のこと、初めて会った日にNZワインを輸入することになった経緯や、現地のブドウ畑や収穫の様子を聞かせてもらい、この二人と一緒にイベントをやりたいと思いました。コロナ禍で中断していたイベントも今年は3年ぶりに復活できて嬉しく思っています。